



若者国際連合-8

UNITED NATIONS FOR YOUTH
～今はただ我慢比べ～

mor i 3580

トランプ米大統領が就任して100日を過ぎた。「米国第一主義」、「米国を再び偉大な国へ」というスローガンが、政策として具体化したものもあり、周囲の反対により具体化していないものもあるというのが現在の状況だろう。新大統領の就任以後100日間を「ハネムーン」といって、マスコミや政界での新大統領の取り扱いが少し甘くなるという傾向があるそうだが、トランプ氏の場合は異例づくめだったと言われている。日本でも新内閣の出来立ては「ご祝儀相場」というから、「ご祝儀相場」の期間を少し過ぎたころと言っても良いのではないか？

この間トランプ氏は公約に掲げていた①移民の受け入れ制限、②メキシコからの移民の流入を防ぐための国境の巨大な壁設置、③アメリカ人の雇用を増やす、④アメリカ製品の売り上げを伸ばす、⑤オバマケアと呼ばれる医療制度の改革などに手は付けたが、実現となると志半ばと言われる状態であろうか。ただ明らかになったのは「米国第一主義」が軍事力に傾いたと世界中に感じさせたという点である。

トランプ氏はシリアのアサド政権が国際的に禁じられている化学兵器を使用したと断じ、その報復措置として空爆を命じたことにより、国際的にそのような感じを世界に与えてしまった、これは世界にアメリカは本気だと思わせる効果があったようだが、アサド政権を支持するロシアとの関係を悪くしたとの評価もあった。しかも中国のトップ習氏との会談中のことだと伝えられている。トランプ氏は習氏に対し、北朝鮮に対する影響力を強めるように要請すると同時に「中国がやらなければ、アメリカ独自でもやる」という強い姿勢であったと伝えられている。

その強い姿勢を示すために、原子力空母を北朝鮮の近くに配置するようにしたとも伝えられている。

これに対し北朝鮮は米韓軍事合同作戦にあわせ、核・ミサイルの研究開発の継続を発表し試射も行った。米韓軍事当局によれば、その試射は失敗に終わったそうだが、核・ミサイルの研究開発の継続は確認した。アメリカ・北朝鮮ともに、「意地の張り合い」から「我慢比べ」の時期に入ったともいえる。日本はかつて「我慢比べ」ができず、1941年12月8日私の小学校4年の時にハワイの真珠湾を攻撃し、米英軍と戦争を始めてしまい、1945年8月中学2年の時にみじめな敗戦に終わった。当時の日本は石油の輸入の7～8割を占めていた米国と戦争を始めたのだから、無謀も甚だしいと言わざるを得ない。当然ガソリン不足に直面し、それを補うためと称して、松根油（しょうこんゆ）掘りに動員され、巨大な松の根っこ掘りを行なった記憶がある。

「我慢比べ」の時は、我慢できなくなった方が負けるということを学んだ。人類は全

人類を殺せるだけの核兵器をすでに所有しており、国境もどんな壁も通り抜けてしまう放射能の特性を知れば「使うに使える」ことははっきりしている。今はただじっと「我慢比べ」を続けながら、核兵器のない世界をどう実現するかを語り合うしかないのである。人類が生き残りを図るには「核兵器のない世界をどう実現するか」を軍事力抜きの話し合いで行うしかないのである。

2017年5月5日、日本ではゴールデンウィークと呼ばれる長期休日の中の祝日「子供の日」である。私は子供時代の経験から、「子供の衣食住と基礎教育は大人の責任」と思っているから、地球上のどこで生まれようと、子供たちは健全で幸せで希望を持って生きてほしいと心から念じている。人類はこれまで何十回、何百回とお互いに殺し合う戦争をやり、「死の文明」を重ねてきたが、21世紀以降は子供たちが希望を持って生きてゆく「生の文明」に変えなければ生き残れないところまで来てしまった。核兵器は人類を全滅できるほど所有してしまい、この辺が「死の文明」の終わりであることを人類に気付かせる「最終限度」となってしまった。

21世紀以降は子供たちに希望を与える「生の文明」に切り替えなければ、人類は生き残れないことは明白である。若い人たちの質問も、この2、3か月この問題に集中していた。どうやって「死の文明」から「生の文明」に切り替えるのか、各国で民生の向上を最優先する政権を創るところから始めなければならないだろう。他国の脅威を強調して武力を増強するのは、軍備拡張競争に巻き込まれるだけで、その間民生の向上と「子供たちの衣食住や基礎教育」の充実はおろそかになるだけである。「生を大事にする」…こんな当たり前のことから始めることとなろう。

第1章 我慢比べの米・朝、周辺国

- Q：「我慢比べ」とはどういうことか？
- Q：北朝鮮はどこに打ち込もうとしているのか？
- Q：技術的にまだ自信がないともいえる？
- Q：北朝鮮はアメリカから何を引き出そうとしているのか？
- Q：さらなる制裁措置だけでいいのか？
- Q：拒否権が発動されたと聞くが…？
- Q：結局「我慢比べ」の時はどうすればいいのか？
- Q：フランスと韓国の大統領選が終わったね？

第2章 39歳フランス大統領

- Q：39歳の大統領誕生、感想は？
- Q：39歳の大統領誕生と「若者国際連合」との関連は…？
- Q：仏の39歳、70歳のトランプ氏とは歳が離れすぎているが…？

第3章 韓国大統領、北との対話へ

- Q：日韓関係はどうなる、北との関係は…？
- Q：若者も話し合いの行方に関心？
- Q：日本にできることは…？

第4章 教育勅語と共謀罪

- Q：教育勅語を道徳教育に活用？
- Q：教育勅語の中身は…？
- Q：ほかに暗唱させられたものは…？
- Q：共謀罪についてはどう思う？

第5章 日本人女性、初の国連事務次長

- Q：日本人女性が初の国連事務次長になる？
- Q：高校生平和大使20年？
- Q：「若者国連」が現実味を帯びてきた？

Q：「我慢比べ」とはどういうことか？

A： まえがきでも触れたが、アメリカと北朝鮮は核開発をめぐる「意地の張り合い」の時期から「我慢比べ」の時期に入ったようだ。核開発を進める北朝鮮とそれを阻止したいアメリカとがにらみ合い、どちらも動くに動けない状況にあるようだ。こういう国家間の状況を、私は「我慢比べ」といつている。

日本もかつてアメリカとの間で、軍備拡張をめぐる対立したことがあり「我慢比べ」のつらい厳しい状態に我慢できず、1941年12月8日私の小学校4年の時に、ハワイの真珠湾を攻撃して戦争に突入してしまった。1945年夏私の中学2年の時に敗戦となった。

「我慢比べ」は我慢できなくなった方が戦争に負けるという学びであった。

私はこのころの体験から、「子供の衣食住と基礎教育は大人の責任」と考えるようになった。また北朝鮮の言うように、軍備拡張と国民の生活の向上は両立しないものと思うようになった。私の生まれる前年から中国と戦争状態になっていたから、国策は戦争の継続であり、すべての国力を軍備に投入することであった。こどもが食糧難で、軍事教育という偏向教育を受けようが、国としては構わないという時代であった。それ以外の選択肢はないと国民全体が思われていた時代であった。

いままた「我慢比べ」の時代を迎えた、と私は思っている。トランプ氏は世界一の軍事力を背景に「力は正義なり」を実践しようとしている。3千発以上の最新・最強の核兵器を有し、世界を牛耳ろうとしているようにみえる。原子力空母を北朝鮮近海に急行させ、戦端を開くこともいとわない姿勢を示した。「力づくでも核開発を断念させる」姿勢を示したのである。

あわてたのは同盟国である。日本と韓国は地理的に北朝鮮に近く、米軍基地も多数あるので、反撃を受けやすいと感じたのである。北朝鮮に核開発を断念させれば平和のためには良いと分かっているが、反撃の主たる対象にはなりたくないというのが本音である。同盟国から自重・自制を勧められ、トランプ氏も動けない状況にある。

一方、北朝鮮は核開発という既成路線を突っ走っているが、最近の発射では、米韓軍事専門家に失敗と言われているようだ。失敗の責任を誰かがどんな形でとるのか分からないが、これで核開発は早まるのか遅くなるのかも分からない。

Q：大体北朝鮮はどこに打ち込もうとしているのか？

A：大体、北朝鮮はどこに打ち込もうとしているのか、それもわからない。私は、北朝鮮はアメリカ本土への直接の打ち込みを狙っていると感じている。アメリカは自国の領土で戦争したことがなく、アメリカ本土への直接の攻撃を受けたことがない。9.11の同時テロの時の狼狽ぶりを見れば、アメリカ本土への攻撃は最も効果的と言えるのではないか。

日本や韓国への攻撃では、アメリカ国民の大半はよそごととってしまうのではないか？アメリカを交渉のテーブルに引き出すのが北朝鮮の狙いとすれば、アメリカの世論はどういう反応を見せるだろうか？

Q：発射実験に失敗するような状況であれば、技術的にまだ自信がない？

A：そうかもしれない。そうでないかもしれない。他国には分からないというのが現状であろう。攻撃側はアメリカのどこそと一点に絞って準備できるが、防御側は広いアメリカの全土を守らなければならない。しかも高さは数キロいや数十キロとなると、莫大な費用と時間がかかる。これも「我慢比べ」が長引く一因となっていよう。

Q：北朝鮮はアメリカから何を引き出そうとしている？

A：それはわからない。交渉のテーブルについて、北朝鮮の発言を聞いて初めてわかることかもしれない。核開発を続けながら、アメリカの「ならず者の国」の指定をはずさせることと何らかの援助を引き出すことと一般的には言われている。北朝鮮が核開発を続けながらという点で、国際世論の賛成を得られるとは思えない。

Q：北朝鮮が核実験を行うたびに、国連は制裁措置を重ねているが、北朝鮮に核開発の時間を与えるだけで、効果はほとんどないに等しいと思う。ほかの対策はないのか？

A：国連の制裁決議に対して、拒否権を発動する国もあり、まじめに決議をそのまま実行する国もある。日ごろのお付き合いの程度により温度差があるということか。拒否権は第二次世界大戦の勝ち組5か国、アメリカ・イギリス・フランス・ロシア・中国だけが持っている。もうそろそろ第二次大戦終了後80年も経つというのにそのままである。また国連発足後加盟した国、つまり第二次世界大戦の勝敗に関係ない国が多数を占めることになった今でも国連は先の戦争を引きずっているとされても仕方ない。この現状を戦後生まれの若者がどう判断するのか、聞いてみたい気がする。

Q：今回の北朝鮮のミサイル発射に対する制裁措置でも、拒否権が発動されたと聞くが...？

A：国連発足後何回拒否権が発動されたが分からないが、拒否権の存在そのものに、そろそろ再検討する時期が来ているのではないかとくに拒否権を持つ5大国の若者の意見を聞きたい。戦後生まれで、戦争と関係ない若者の意見を集約する場が欲しいと思うがどうだろうか？

20世紀には、1世紀に2度も世界大戦があり、1945年夏に戦争が終わったときには、勝者も敗者も戦争はこりごりうんざりという気分であった。再び戦争をやらないために、国連ができたはずだが、勝者にも余裕がなく戦後処理を行なってしまったために、いろいろな面で不自然で無理がある状態のままになってしまった。そろそろ前の戦争には関係なく、再検討する時期と思うが、世界の若者たちはどう考えるだろうか？

Q：結局、「我慢比べ」の時期はどうすればよいのか？

A：当事者はもちろん、周辺国も世界のどこの地域でも、緊張を和らげる努力が必要だと思う。過剰反応は緊張を高めるだけだと思うがどうだろうか？

「やられる前にやれ」といういさましい議論がでてきたら要注意、この声が圧倒的になってきたら戦争没入は避けられない。過剰反応を避け、緊張を和らげる努力をしながら、話し合いの場を作り、相手の要求を正しくとらえることが肝要となる。「我慢比べ」の時期は、軍事力の活用を避け、話し合いに徹することが大切である。

なぜ戦争にならないために国連を創ったか、その原点を忘れてはいけない。いきなり地球連邦はむりなので、地域ごとにEUやアセアンなどをつくり、だんだんに地球連邦に近づけてゆく過程が大事なのである。従ってせつかく創ったEUから離脱するなど、歴史を逆行する行動は許されない、と私は考えている。イギリスのEU復帰の動きが始めるのは真近いと思っている。戦争はもうこりごりだ、戦争で得るものは何もない、私の体験はそう思っている。

Q：フランスと韓国の大統領選挙が終わった。この感想は...？

A：これらについては、第2章で取り上げたい。イギリスのEU離脱、トランプ氏の米大統領就任と世界を驚かせてきたが、1章設けて検討する価値があると思う。

Q：フランスの大統領が決まったね。39歳とは驚いた。感想は...？

A：39歳という若さで大統領就任とは驚いた。これにはいろいろな意味があると思う。私の提唱する「若者国際連合」とも合致する。大統領に当選したマクロン氏は、決選投票の相手である極右政党のルペン氏よりも、フランスを代表する大統領としてふさわしいと有権者が判断したのであろう。つまり極右の人よりは良いとの判断が働いたのかもしれない。

投票率は高かったようだが、マクロン氏の得票率も高かったと報道されている。マクロン氏はEUとの交流を大事にしたいと述べている。イギリスのEU離脱が決まったばかりで、この上EUの中の有力国フランスが、離脱を公約にする大統領を選んでは、EUの今後はどうなるだろうという心配があった。マクロン大統領はその心配に対し明快な答えを示したと言える。

前章で述べたように、私は第二次世界大戦終了後、もう戦争はこりごりだ、うんざりだという国際的な雰囲気の中で、国連がつくられたが、その後の改革を怠ってしまった。第二次大戦終了のとき、中学2年だった私は身をもってその経過の中にいた。いきなり世界連邦は無理だろうから、EUやアセアンのように、地域に密着した形で出発し、だんだん統合して世界連邦に至る＝戦争がなくなる、のが良いのではないかと思ってきたので、私の存命中に道筋だけはつけたいと思ってきた。フランスがEUに残るという選択をしたことは、高く評価したい。

Q：フランスは39歳の若き大統領を選んだが、あなたのいう「若者国際連合」との関連は...？

A：私は1932年生まれの今85歳、ラジオしかなかった頃からスマホの時代まで生きてきて、変化の激しさ・速さに驚いている。激変の世の中についてゆくのが精いっぱいという人生だった。こんな人が分かった風をして、今どきの若者の将来を考えるのはどうかと思っている。激変・長寿の時代にふさわしい生き方があると思ってきた。

しかし世の中は繰り返すということもある。戦前には戻りたくない。戦前の息苦しさ・不自由さは経験しなければ分からないだろう、という気持ちもある。自分の体験の中で、将来若者たちや子供たちのためにならない事になる恐れがあることは言うておかねばならない。しかしその上でどう判断するかは、今の時代の若者に任せようというの

が私の姿勢である。「若者国際連合」はそういう意味である。

39歳という若き大統領を選んだフランスと、どこかで通じるものがあると思う。それにもう一つ。今回のフランス大統領選でなぜ既成政党の候補者が決選投票に残れなかったか、既成政党に対する、既成政治に対する国民の絶望が思った以上に広く、深かったということである。世の中が早く激しく変わる中で、政治の世界だけは古臭いのでは対応できるはずがない。若者の組織化が急務である。

Q：フランス大統領の39歳と比べると、70歳のトランプ氏はかけ離れているが...？

A：トランプ大統領は70歳、一般的にはそろそろ老害に気を付ける年ともいわれている。私が気になるのは、世界一の軍事力を背景に、20世紀までの古臭い「力の正義」を時に振りかざすことである。39歳の若者相手にどこまで通用するだろうか？人類全滅の核兵器を持ってしまった以上、顧客を殺し顧客を減らす核兵器に頼るのは、ビジネスマンとは言いがたい。しばらくは「我慢比べ」に興じ、軍事力行使に頼らず、話し合いで対応するしかないのではないか？それをやり遂げた時、世界を救った大統領として、世界中から尊敬され感謝されることになるだろう。世の中は変わった。変わったことはトランプ氏の大統領就任で証明された。

第3章 韓国大統領、北との対話へ

Q：お隣の韓国も大統領選挙が終わった。9年続いた保守政権が変わったことにより、日韓関係も変わるのか、北との関係はどうなるのか？

A：前大統領が罷免されたが、選挙が無事に済んで良かったと思っている。9年続いた保守政権が革新政権に代わったことにより、日韓関係もいろいろと変わることが予想される。とくに前政権と合意した、いわゆる慰安婦問題については、新大統領が再交渉といているので、何らかの動きはあるだろう。

私が注目しているのは、新大統領が北朝鮮との関係改善を言っている点だ。北朝鮮はアメリカを始め周辺各国への核兵器の打ち込みを宣言して、周辺各地の緊張を高めている。もともと朝鮮民族は一つであったのに、第二次世界大戦終結にあたって、大国の都合により分断され、それが緊張の一因ともなっている。ドイツの壁はなくなったが、朝鮮の壁は残っている。文大統領の進める話し合いにより、統一の可能性が出てくれば、緊張緩和に大いに役立つことだろう。

Q：私たち若者も話し合いの行方を注目したいと思うが...？

A：非常にいいことと思う。日本は朝鮮半島を植民地にしていた時代があり、日本の敗戦により分断されたのだから、全然関係ないわけではない、と私は思っている。（朝鮮が日本と同じ色の地図を見た記憶がある）同じ民族が二つの国になっている方が不自然であり、緊張が生じるともいえる。文在寅大統領の北への話かけに期待する。

Q：韓国大統領の北への話かけに期待するだけでなく、なにか日本のできることは...？

A：外交ルートを通して、あらかじめ聞いておくことも含めて、事前打ち合わせはあったほうが良いと思うがどうだろう。例えば「子供の給食など民生の向上に直接役に立つ人道支援」を国際赤十字を通しておこなうというのはどうだろうか。国連の行う制裁とは別に行うのである。要は北の核開発を断念またはペースダウンする方向で支援するのである。制裁ばかりではなく、人道援助も行うのである。国際社会の厳しさと同時に温かさも伝えるのはどうだろうか？

北風と太陽という童話を思い出した。だれにも太陽は必要なのである。今回成功するかどうかは分からないがやってみる価値はある。国際社会の役に立つ事はなんでもや

ってみよう。

Q：最近閣僚が「教育勅語」を道德教育に活用すると言ったとか言わないとか？

A：我々は「教育勅語」を暗唱させられた世代だからね。「歴代天皇」のお名前も覚えた。いまどき「教育勅語」を暗唱させる保育園があると聞いて、その時代感覚には恐れ入った。我々のころの「教育勅語」は普段奉安殿にまつられ、儀式のときは正装の校長先生がうやうやしく、おもおもしろく捧げ持っていたのを思い出す。

Q：中身は怎なの？

A：父母に孝に兄弟に友に朋友合い信じ...と一般的な道德観がかかっているが、その部分だけを読んだ人が道德教育の中に取り入れても良いと言ったと伝えられたのではない。

ところが明治憲法の時代で、主権は天皇にありと「汝臣民」と呼びかけるところから始まるのだから、主権在民の現憲法では困るのである。教育勅語の中に「一旦緩急あれば義勇公に報じ・・・」という部分があり、「公に報じ」が私よりも公（おおやけ）を大事にする思想と受け取られ、民主主義とは相いれないとなったと聞いたことがある。それに全体として、年長者・男性に有利、上からの目線が目立つという点も指摘されたと聞く。

「教育勅語」では「夫婦相和し・・・」とあるが、離婚が法的に認められた時、女性の評論家が「女性の勝利」と喜んでいたことを思い出した。それ以前は、離婚希望の女性は鎌倉の駆け込み寺に駆け込み、生涯仏門にすることが多かったという。

このように議論が分かれる中で、教育にご縁のある政治家が軽々しく口に出すべきことかどうか、検討の余地があると思う。だいたい道德に政府が口を出すべきかどうか、道德という心の内面の問題は国家権力とは無縁のものであり、政府がとやかく言うべきこととは違ふと思う。

約2500年前の孔子は、道德に関して漢字一字だけを生涯の指針とするにはどの字を推薦するかと弟子に聞かれたとき、だまって「恕」の字をさしたという。「恕」とは「おもいやり」のことと思う。孔子は思いやりをもつことが大事と教えたのだと思う。

Q：ほかに暗唱させられたものは…？

A：「軍人勅諭」も暗唱させられた。「一つ軍人は…」に続くもので、軍人の心構えを説いたものであった。歴代天皇のお名前を覚えたが「じんむ すいぜい あんねい いとく こうしょう こうあん こうれい…」と続くものでどんな漢字だったか忘れた。「…めいじ たいしょう しょうわ」で終わるが、124代の天皇の名前を暗唱して何の役に立ったのか。

Q：最近「共謀罪」についての議論が国会でも行われるようになったが？

A：2020年の東京オリンピックを控え、テロを警戒するために必要というが国民の中に、表現の自由を侵される恐れがあるとの危惧がある。日本の警察はかつて国家権力を振り回し、国民相互の監視体制をつくって、表現の自由を脅かす愚を犯したことがあった。二の舞を演じることのないように、特に慎重にならざるを得ない。私は身近にその例を見てきたので、危惧している。その頃の息苦しさ・不自由さには戻りたくないと心から思っている。

第5章 日本人女性初の国連事務次長

Q：2017年3月30日朝刊に、「国連のグテレス事務総長は29日午後（日本時間30日未明）国連開発計画（UNDP）の中満泉危機対応局長（53）を国連軍縮担当上級代表の金事務次長の後任に任命すると発表した。日本人女性が国連本部の事務次長となるのは初めて。」という記事が載った。おめでたいことで…？

A：国連では27日に開幕した「核兵器禁止条約」の制定交渉に反対する核保有国と推進する非核保有国の意見の対立が鮮明化しており、停滞している核軍縮を前進させるため、手腕が問われることになる。中満さんは任命を受け「国連事務総長の下、世界をより平和にしてゆくために、誠心誠意ちからをつくしてゆく」とコメントした。と報じられている。

これはグッドニュース。まず当の中満さんに「おめでとう」と言いたい。唯一の被爆国日本が同盟国のアメリカの意向を受け、核保有国の側に立ったのは変則である。唯一の被爆国の立場で、両者の間に入って、「核兵器禁止条約」を取りまとめるのが、世界が期待する日本の役割であろう。中満さんの手腕に期待するとともに、「若者国連」とそれを推進する日本人若者の出番であろう。

Q：高校生平和大使が活動20年を迎えて、ノーベル平和賞を視野に、組織の在り方を検討するとの記事があったが…？

A：高校生平和大使20年、日本の若者もやるねー。記事によると、「高校生平和大使は1998年から毎年海外を訪問。昨年までに延べ146万以上の核廃絶を訴える署名を国連に届け、軍縮会議の場で代表者が演説してきた。ノーベル平和賞を受賞できるのは個人か組織化された団体のみなので高校生平和大使の会を結成したという。」（東京新聞2017年4月10日付け朝刊）

事務次長に就任された中満さんも、楽しみに思うのではないかな？

Q：「若者国際連合」が現実味を帯びてきたともいえるのではないかな？

A：激変の時代では、将来の長い若者やこどもと将来の短い中高年との間で感じ方がまるで違う場合がある。イギリスのEU離脱投票でも、若い層ほど残留支持が多かったという。現在の国連は80年も改革を怠ってきたので、現状や現在の国際常識から外れてき

た所がある。大戦終了後生まれた人が多くなってきているのに、あいかわらず従来の感覚で運営されていると感じている人が多くなっている。「よりグローバル化した」のは事実である。この辺で、40歳未満の若者たちに、地球の将来を託すのはいかなものかと提案する。トランプ氏も70歳、第一線で39歳のマクロン氏と渡り合うのはしんどいのではないか？

北朝鮮からいつどこへ核兵器が発射されるのか、それにおびえている人が多いと聞く。日本だけでなく、韓国、アメリカにも多いという。いろいろな憶測はあるが、憶測は憶測である。当たるとは限らない。どちらも身動きできない状況にあれば、私の言う「我慢比べ」と言っても良いのではないか。

「我慢比べ」の時は、じっと我慢の子であった、という状況が続けるしかない。動く気配でもしたらいけない。しかし、いつやられてもいいという覚悟はしておかなければならない。これは私の体験からそう思うだけだ。浮き出し合って、あわてだすのがもっともいけないと思う。

「我慢比べ」の状態のまま数年たってもいいではないか。そのうちどちらかの政治体制が変わるかもしれない。どちらも核兵器の発射ボタンを押さずに済めば、結構なことである。なにしろ人類は全人類を殺せるだけの核兵器をすでに持ってしまい、それらが十分に拡散されている状況を皆知っている。人類はバカではない、「我慢比べ」を続けるのか、全滅を選ぶのか？

激変の時代に長生きしたら、変化する時代についてゆくのが精いっぱいという人生も出てくる。そういう人に人類の未来を判断させてはいけない、若い人の判断や希望に任せる、激変・長寿の時代には、そのように思う人が出てきても、おかしくないと思うがどうだろうか。

私はこの「若者国際連合」シリーズを英語に翻訳して、世界の人たちに聞いてみたいと思うがどうだろうか？原文そのままの翻訳でなくても、要旨だけでもよいのではないか。ただし翻訳料は払えない。お互いに人類の未来のため、壮大なボランティアだがどうだろうか...

その他の公開中の本 (mori3580)

[若者国際連合一13 ～地球第一主義](#)

[若者国際連合一12 ～宇宙時代のルール創り](#)

[若者国際連合一11 ～再び北・核ミサイルの件](#)

[若者国際連合一10 ～北朝鮮が新時代を創る？](#)

[若者国際連合一9 ～核ミサイルにどう対応するか](#)

[若者国際連合一7 ～丸腰は撃たない](#)

[若者国際連合一6 ～とうとう大統領になっちゃった](#)

[若者国際連合一5 ～トランプ氏とどう付き合うか](#)

[若者国際連合一4 ～国民投票・その時あなたは？](#)

[若者国際連合一3 ～若連が世界を変える](#)

[若者国際連合一2 ～若連が動き始める](#)

[若者国際連合](#)

[若者が目覚めた](#)

[みんな目覚めた](#)

[みんな生きる](#)

[テロをなくす](#)

[戦争は怖い！ ～東京大空襲体験者からの平和のメッセージ](#)